

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	23-418	佐賀県医療センター好生館 角南隆史 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 松下幸生
題名（原題／訳）		
Screening, Brief Intervention, and Referral to Treatment for Prenatal Alcohol Use and Cigarette Smoking: A Survey of Academic and Community Health Care Providers 出生前の飲酒と喫煙に対するスクリーニング、簡易介入、治療への紹介：大学および地域医療提供者の調査		
執筆者		
Ordean A, Forte M, Selby P, Grennell E.		
掲載誌		
J Addict Med. 2020;14(4):e76-e82. doi:10.1097/ADM.0000000000000588		
キーワード		PMID
アルコール、カウンセリング、妊娠、スクリーニング、たばこ、喫煙		31703018
要旨		
<p>目的： 出生前の飲酒と喫煙は、多くの妊娠の有害な転帰と関連している。スクリーニング、簡易介入、治療への紹介（SBIRT）は標準化されたアプローチであるが、日常的な妊娠ケアにおける実施は依然として課題である。本研究の目的は、出生前のアルコールとタバコの喫煙に対処するために SBIRT を利用している医療提供者の現在の実践、実施への障壁、および教育の必要性を明らかにすることである。</p> <p>方法： トロントの2つの病院に勤務する家庭医、助産師、産科医を含む118人の医療提供者を対象に調査を実施した。</p> <p>結果： 回答率は79%であった。ほぼすべての医療者が、すべての妊婦にアルコールと喫煙の状態をスクリーニングすると報告した。簡易介入を行った医療者は少なかった。出生前の喫煙については、アルコール使用と比較して、教育や支援的カウンセリングを行う医療者の割合が高かった。さらに、最大60%が妊婦をアルコールと喫煙の治療プログラムに紹介していた。地域に根ざした医療提供者では、妊婦に依存症治療プログラムを紹介している割合が有意に高かった。介入への障壁としては、適切なリソース、トレーニング、クリニカルパスの欠如が認識されていた。</p> <p>結論： 医療提供者は、出生前の飲酒と喫煙に関する普遍的なスクリーニングを報告しているが、簡易介入と治療への紹介はより限定的な実践である。効果的な簡易介入と適切な治療資源への紹介に関して、すべての医療提供者に対する教育が必要である。臨床現場で実施できる方法の開発は、出生前の飲酒と喫煙に対する SBIRT のすべての構成要素の実施を増加させる可能性もある。</p>		